

薬物乱用について

島根県松江市立第一中学校 3年 おおぐに はるね
大國 陽音



薬物はなぜいけないのでしょうか。芸能人が度々薬物を所持していて逮捕されたり、外国では合法でも日本では犯罪として取り扱われたりと、今の日本では薬物を乱用することは絶対に悪だとされています。

それはなぜなのか。当事者の目線で見ると、健康の影響が最も大きな要因だと考えられます。薬物乱用の症状の例として幻覚・妄想、手足のしびれ、錯覚状態、最悪の場合死に至ることがあります。また、家族や友人関係など社会的な目線で見ると、犯罪や事故に関わるケースもあります。薬物を乱用することは脳に大きな影響を与え、自分をコントロールする力を無くします。それにより「自分は狙われている」と幻覚が現れ、周りに対する暴力行為や性的な非行、薬物を手に入れたいという強い依存症状から盗みや恐喝などを引き起こすこともあります。実際に薬物乱用による交通事故も多く報道されています。これだけ見ると薬物乱用はデメリットしかないし、なぜ使う人がいるのか全く理解ができないと思います。

私もそう思い、薬物を使用するきっかけの調査をしてみると、一番多いのは好奇心、次に面白半分の気持ち、その他は友人、知人など親しい人にすすめられたからでした。なんと多くの人が興味半分で多くのデメリットの側面をもつ薬物を使用していました。薬物はとても恐ろしいものなのに一時の感情で、一時の好奇心で使用してしまうというのが現状としてあります。

しかし私は正直、薬物依存にならない自信があります。薬物のイメージとしてダメなもの、法に触れるもの、恐ろしいものなど漠然としたものであり、皆さんの心の中にも私は大丈夫、自分が薬物に手を出すわけがないといった気持ちがあるのではないかと思います。

ですが、もしとても仲良くしている先輩や友達に誘われたらきっぱりと断りきれるという確信はありますか。日々の暮らしの中で失敗したり嫌なこともあると思います。そんな投げやりな気持ちになった時でも絶対に薬物に手を染めることがないと言い切れることはできますか。薬物はそんな心の弱いところにつけ込んできます。先輩に誘われたから断りづらい、友達に試さないかと聞かれ空気を読んで手を出してしまう、ちょっとだけならいいかという気のゆるみ、嫌なことがあってイライラするから気持ちを抑えたいなど、様々な理由で薬物に手を出してしまうのです。そのため、薬物使用率が0になることは現実的に考えて難しいことだと思います。

ではどうすれば0に近づけることができるのか、もしくは自分や自分の大切

な人を守ることができるのか。私が考えたのは薬物に関する知識を持つということです。薬物の恐ろしさ、症状などを知ることで薬物に手を出す可能性は格段に減少すると思います。死ぬことがあるかもしれないし、周りに危害を加えてしまうことがあるかもしれないなど、薬物がダメな理由を知って理解することは何よりも大事です。これは薬物だけではなく未成年飲酒や喫煙の防止にも当てはまることだと思います。

私は知るということは一つの強みになると考えています。心が弱っても、ドラッグへの知識があれば周りに誘われても上手に断る言葉が自然と口から出ると思います。このようになれば薬物で嫌な気持ちになる人が0に近づくと思います。

これだけ薬物について調べても、私にとって薬物というのは未知でありながらとても身近という得体の知れないものです。でも、使わない、関わらないという意味ははっきりとしています。これはとても大きな武器だと思います。周りにもどんどん伝えていきたいです。

これから薬物がもっと巧妙な手口で私に近づいてきても、新しく恐ろしいものが現れても、また知識を持てば負けることはないのではないかと思います。そして周りにも危険な理由を教えて、誰も薬物に手を染めることがないようにしたいです。自分の大切な未来を自分の力で守り、巻き込まれないようにします。